

2012.3 No. 21



佐賀大学病院ニュース

患者・医師に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

ヒトT細胞白血病ウイルス-1型(HTLV-1) 専門外来を開設しました



成人T細胞白血病・リンパ腫をはじめとして難治性神経疾患、ぶどう膜炎、慢性肺炎患者など様々な

検査部長 末岡榮三朗



病気を引き起こすHTLV-1ウイルス。そのキャリアは全国に100万人いると推定され九州にはその半数50万人がいらつしやいます。HTLV-1ウイルスは主に母乳を介して感染することから、平成22年10月から母子感染予防対策事業による妊婦健診がスタートしました。これにより妊婦さんがHTLV-1ウイルスに感染しているか、母乳を与えるか否かについて体制は整いつつあります。しかしながら、HTLV-1ウイルスに感染していると分かったお母さん自身はどうすれば良いのでしょうか。いつ発症するかわからない病気に怯えながら一人

で悩み続けるキャリアの方は少なくありません。そのような方の健康状態の診断、治療法や予防法についての情報の提供の場として、HTLV-1ウイルス専門外来の設置が佐賀県地域医療再生基金充当事業として認められました。HTLV-1ウイルス専門外来は、毎週水曜午後15時から17時、私と血液・腫瘍内科のスタッフが担当します。今回設置した外来は、カウンセリング体制を充実させることを目指しています。HTLV-1ウイルスの感染が判った時から、病気に対する恐怖だけではなく、家族関係、社会関係の面でも様々な悩みと戦うことになりま。ひとりで悩むのではなく、一緒に考える場として、少しでも明るい情報を正確に提供することを考えています。4月からは臨床心理士の方の参加を予定しています。佐賀大学病院スタイルのHTLV-1ウイルス関連疾患窓口としたいと考えておりますので、他の診療科の方で、HTLV-1ウイルス感染が判った患者さんがいらつしやたらご連絡ください。

肝疾患センターとは

佐賀県には日本で肝がん死亡率が12年連続ワーストワンのという実態があります。肝がんは、肝炎ウイルスによる肝炎を治療することで、高い可能性で予防できることが分かっています。佐賀県の肝がんを減らすために平成24年1月1日付けで「肝疾患医療支援学講座(寄附講座)」が設置され、病院内に「肝疾患センター」が開設されました。以下に、肝疾患センターの取り組みをご紹介します。

● 肝炎連携事業

肝炎ウイルスをもつ方が、かかりつけ医と専門医療機関との連携による詳しい検査や治療をしやすい環境を作ります。

● 地域支援事業

県内どこでも最良な診断や治療が受けられるように、かかりつけ医や、地域の大きい病院に情報を提供し、また密接な連携を支援します。

● コーディネーター育成支援事業

現在、県内7カ所の専門医療機関において「特任肝炎コーディネーター」、また市町や保健福祉事務所などでは「地域肝炎コーディネーター」が活躍しています。肝炎コーディネーターとは、肝

肝疾患センター長 江口有一郎



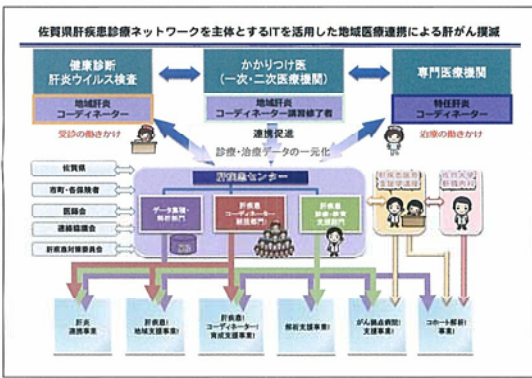
炎の検査や治療について知識が豊富な専門職で肝炎の検査や治療がスムーズに受けられるようにお手伝いします。肝疾患センターは肝炎コーディネーターの育成と活動を支援します。

● 解析支援事業

佐賀県におけるウイルス性肝炎臨床データを解析し、肝臓の病気の予防、治療を研究します。

● 佐賀県の一

人でも多くの肝炎ウイルスに感染している方にお役に立てるように日夜努力しています。どうか宜しくお願ひ申し上げます。



就任挨拶



内科学講座(神経内科) 教授 原 英夫

昨年11月1日付けで内科学講座の教授に就任しました原 英夫です。私は1983年に九州大学を卒業後、同脳神経内科に入局して以来、重症筋無力症、パーキンソン病など神経難病やアルツハイマー病を中心とする認知症の研究と臨床に携わってきました。



総合診療部 教授 山下 秀一

平成24年1月1日付けで附属病院総合診療部の教授に着任いたしました、山下秀一です。国立大学で最初に設置され、歴史のある教室の責任者としての重圧を、今ひしひしと感じています。私は宮崎医科大学卒業時より、救急もこなせる総合内科医を目指してトレーニングしてきました。神経内科や呼吸器科も得意分野です。今、地域医療は危機に瀕しています。入院患者や救急患者を管理できる内科の医師が不足しています。私には問題はさらに深刻に思えます。というのは、一般内科という概念自体があやしくなってしまう様に思えるからです。たとえば、肺炎の患者さんの入院を依頼すると、呼吸器科の医師がいなくてという理由で断られたりすることがあります。肺炎は一般内科の疾患であるという常識が通用しなくなりました。このような事態が各所で見られます。地域医療を立て直す切り札のひとつが総合診療部の充実です。それぞれの医師が得意分野を持ちつつも、専門に偏りすぎず、内科一般を広くカバーできるようにトレーニングし、ある程度の重症度の入院患者まで、腰を強く診断し治療できる能力を獲得できるシステムが理想的です。このような医師をたくさん育てたいと強く願っています。微力な私ではございますが、全力で頑張る覚悟です。どうぞ皆様のご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



内科学講座(肝臓・糖尿病・内分泌内科) 教授 安西 慶三

昨年11月1日付けで肝臓・糖尿病・内分泌内科の教授に就任しました安西慶三です。私は昭和61年に宮崎医科大学(現宮崎大学医学部)卒業後、九州大学医学部第一内科、福岡大学医学部内分分泌・糖尿病内科で主に糖尿病を中心に臨床・研究、地域医療連携など糖尿病を中心に臨床・研究を行って参りました。またハーバード大学、スリン糖尿病センターとベス・イスラエル病院で膵臓移植患者の管理を学び、福岡大学で日本2例目の膵臓移植後膵島移植を経験しました。



肝疾患医療 支援学講座 教授 江口有一郎

このたび、本学医学部肝疾患医療支援学講座(寄附講座)の教授を拝命致しました江口有一郎でございます。本講座は、本学と佐賀県が、肝がん死亡率ワースト1位からの脱却を目指し佐賀県内における肝疾患診療連携の推進を目的として、寄附講座設置に係わる協定を締結し、平成24年1月1日に設置されました。さらにそれを受け病院内に「肝疾患センター」が開設され、同センター長を併せて拝命致しました。これから肝疾患センターを軸として、佐賀県肝疾患拠点病院の機能をさらに充実し、これまで肝疾患診療連携における悲願であった佐賀県肝疾患データベースを構築、肝炎ウイルスの未検査者の掘りおこしから、要治療者の治療誘導、専門医療機関とのかかりつけ医の連携等による治療効果の向上までの総合的な肝疾患治療の仕組みの構築を目的として、医学部内科学講座とともに鋭意努力して参る所存でございます。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ヒトT細胞白血病ウイルス-1型(HTLV-1)専門外来を開設しました

末岡榮三朗

肝疾患センターとは

江口有一郎 就任挨拶

院内画廊の充実

病院再整備計画の南北新棟建設がいよいよ本年着工します。しかし、全体の竣工は平成29年になりそうですので、それまでも病院内をできるだけ明るく快適にしたいと考え、院内画廊計画を進めてきました。今回、銀座1丁目のギャラリー杉野様のご紹介で鎌倉在住の三塩清己画伯から5点、東京在住の上藤和男画伯から2点をご寄贈頂きました。三塩清己先生は佐賀県相知町のご出身で日展評議員であり、東光会の理事長もお務めになりました。

病院長
宮崎 耕治



30号」を飾らせて頂きました。また、工藤和男画伯は大分県ご出身の日展評議員であり、創元会の理事長も務めておられ、働く群像表現には定評があります。今回「波と人とコンブ（F130号）」と「アドリア海の漁場（F130号）」の大作を頂戴しました。漁場でありながら明るい色を使い、働く人々の唄が聞こえるように生きる喜びが感じられます。1階売店横の壁面に並んで掛けさせて頂きました。これで、1階から3階の南北の画廊通りが充実しました。色がよく見えるように照明を1個ずつ付けさせて頂きました。が、節電タイプのLEDであることを申し添えさせて頂きます。



「院内緑化推進プロジェクト」

エコロジーガーデンの継続設置について

経営管理課

さまざまなおもてなしをもち、本院を訪れる患者さんやお見舞い等に対し、時に、元氣や勇氣を与えること、また、「癒やし」や「安らぎ」をもって患者さんの療養にふさわしい環境を創り出すことを目的として、平成21年10月から院内緑化の推進を図るべく、病院ロビーにエコロジーガーデンを設置してまいりました。が、はやいもので3年目を迎えることができました。今回、昨年度に引き続き、その運営資金の確保のため、協賛スポンサーの募集活動を実施しましたところ、多数のご協賛のお申し出をいただき、以前にも増してみどりを増やすことができました。

これもひとえに皆様のご協力のおかげであるものと考え、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

なお、この院内緑化計画及び協賛活動につきましましては、今後とも引き続き、実施していくこととしておりますので、より一層のご支援をよろしくお願いいたします。

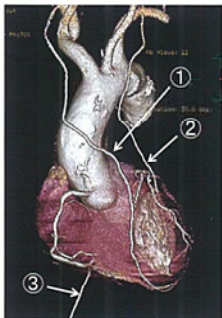
ご協賛いただいた企業様名（順不同）

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 財団法人栄仁会 | 財団法人学校福祉協会 |
| 木村情報技術株式会社 | 富士通株式会社 |
| 株式会社古川総合印刷 | ワタキューセイモア株式会社九州支社 |
| 西部特機工業株式会社 | |
| 株式会社西鉄プラザ（ドールコーヒーショップ佐賀大学医学部附属病院店） | 林酸素株式会社 |
| 有限会社徳永鮮魚店 | 株式会社大島産業 |
| 松屋株式会社 | 株式会社チワタ |
| 佐賀空調株式会社 | 株式会社本田設備 |
| 有限会社深川電気 | 株式会社マベック |
| 株式会社やまと | 千代田計装株式会社 |
| 峯松商店 | 株式会社コアズ佐賀営業所 |
| 大塚食肉販売 | 株式会社ニチイ学館 |
| 三和通信工業株式会社 | 株式会社九州コーユ |
| ホテルニューオータニ佐賀 | 株式会社九州コーユ |
| 第一生命保険株式会社 | マルヤ水産 |
| 吉村空調工業株式会社 | その他（匿名希望） |

診療科紹介

心臓血管外科

心臓血管外科では心臓の手術と血管の手術を行っています。天皇陛下が心臓手術を受けられて、心臓外科の手術が一躍メディアに注目されるようになりました。天皇陛下が受けられた心臓手術は冠動脈バイパス術といって細くなった心臓を養う血管にバイパスをつないで血液の流れをよくする手術です。写真は当科で行ったバイパス手術の手術後のCT検査の映像です。3本のバイパスが繋がっています。天皇陛下の手術では①と②の本のバイパスをつなぐ手術でした。当科では冠動脈バイパス術が毎週のように行われています。冠動脈バイパス術以外の手術としては、心臓弁膜症に対して人工弁を植え込む弁置換術や悪くなった弁を修繕する弁形成術も行っています。血管の手術では大動脈瘤を人工血管に入れ替える



診療科長
森田 茂樹



脈の手術は大変大がかりな手術ですが、最近ステント治療といって従来よりも小規模の手術や、あるいは全く手術をしないで従来の手術と同じ効果が得られる方法が導入されています。佐賀大学は、わが国では2番目、国立大学では最初に多軸造影装置という高機能の血管造影装置を手術室に設置しました。ハイブリッド手術室と呼んでいます。高度のステント治療を行うためです。また世界に先駆け新しいステントも導入しており、今後多くの患者さんがその恩恵を受けることが期待されています。

佐賀県には心臓血管外科が3施設あります。佐賀大学は佐賀県の中核病院として他の2施設と緊密な連携をとって地域の心臓や血管の病気を抱えている人々の治療にあたることで地域医療に貢献しています。また新しい心臓血管外科の技術を世界に発信するための先進技術の開発にも大いに力を入れています。地域の人も大いに力をかけています。地域の人々だけでなく、世界の人の治療に貢献することが私たちのミッションであると考えています。

バイオビジネス

アワード受賞

この度第2回バイオビジネスアワードJAPANにおいて、血液・呼吸器・腫瘍内科教授、がんセンター長木村晋也の「新規ターゲット抗がん剤（世界初ユビキリン1阻害薬）」が、最優秀賞にあたるバイオビジネスアワードを受賞しました。

バイオビジネスアワードJAPANは、大学などアカデミアのシーズを企業に紹介するために年1回行われており、新薬候補を各施設が紹介し、有望とおもわれるものに賞が贈られます。

杉森賞（診療部門）

平成23年度は皮膚・排泄ケアの専任業務活動に貢献した左記の職員を表彰しました。



皮膚・排泄ケア認定看護師
副看護師長
古賀 鈴子

文化コーナー

第5回文化コーナーにもたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

今回掲載されている優秀作品に選ばれた方々には、賞品としてカッチーくんグッズ（マグカップもしくはくい飲み）を贈呈いたします。また、病院ホームページや外来ロビー等に全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。



▲「さくら咲く」青木友紀さん

文化コーナー担当 南里悠介

俳句（社）日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人
木下みね子・万沙羅（選）

- 通院の 足どり軽し 日脚伸ぶ
 - メモそへし 郵便受けの あめ湯かな
 - 朝起きて 雪を見ながら よこになる
 - 立春や 笑顔涙で 立向かう
- 川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選）
- 病にも 貴重な出会いと 感謝です
 - 寝ぼすけが 早起したら 異常気象（起床）
 - 擦れちがう マスクとマスク 目で合図
 - この痛さ 時が過ぎれば 自慢顔
- 光増 透さん
江口八重子さん
坂本芳朗さん
山崎初美さん
ナッチーさん
ナッチーさん
光増 透さん
匿名希望